

研修だより

No.2

「教わる」から「学ぶ」への転換を目指して～稚山学級提案授業～

4月27日（木）に、稚山教諭による校内研究提案授業が行われました。今年度本校の研究主題は『「教わる」から『学ぶ』への転換～『やってみよう』を後押しする、学びのマネジメント～』です。



今回の授業は、研究仮説①『「やってみよう』と

思う課題設定の工夫」、仮説②「学びの場の保障」における具体的な手立てを盛り込んだ内容でした。授業後の研究協議では、グループ毎に手立ての是非や子どもたちの学ぶ様子について議論しました。

【グループ毎の研究協議より】 ※一部抜粋

○前時までの内容を適宜振り返りながら本時の「仮説」を立てる展開は、子どもたちの「やってみよう」を引き出す上で有効だった。

○仮説の「検証方法」も子どもたちが考えることができおり、自力解決の時間になるとすぐに動き出せる子が多かったり、自分たちで声かけをして小グループを作っていたりなど主体的な姿勢が見られた。

○動画の撮影や jamboard を用いたスライド形式など、実験結果の発表の方法も子どもたちが選択し、多岐にわたる手立てを用いることができていた。

●子どもたちの思いを尊重しながら本時の課題を立てると、どうしても時間がかかる。その後の実験や考察の時間がやや削られてしまったか。「シンプルかつスピーディー」な課題設定が理想。

●本時のポイントである「乾電池を二個使っても電力が強くない場合がある」＝並列つなぎの扱いについて。子どもたちの調べたい内容とうまくリンクしない部分があった。子どもたちの主体性を担保しつつ、確実に身に付けるべき「指導事項」をどう扱うかは今後の課題になりそう。

【傳法谷指導主事より】

研究仮説に「4つのch」を視点として加えてはどうか。

仮説①『「やってみよう』と考える課題設定の工夫』

Choice ～自己決定の場

challenge ～挑戦的課題の設定



仮説②「学びの場の保障」

Chatter ～対話場面の保障

chance

～失敗を生かし繋げる機会

【校長より】

・今回のような、子どもたちが自ら「学ぶ」授業を目指していきたい。まずは「活動内容が分かりやすい」かつ「活動の最後に、明確なゴールに到達できる」学習内容で実施し、達成感を大切にしたい。

・特別な機会のみでなく、日常の授業で実践したい。全ての時間を子どもに委ねるのではなく、教えるべきことはしっかりと一斉指導で教えるメリハリも大切。

・アドバイスや補助のバランスを考えて。子どもたちにあえて「不便」を与えることで、状況を乗り越えるためのアイデアが生まれてくる。